

■ 教師海外研修レポート

平成25年9月15日(日)

- 1) 訪問先: (関西国際空港)→バンコク・スワンナプーム国際空港(タイ)
→トリブヴァン空港(カトマンズ)→エアポートホテル(カトマンズ)
→古都パタン→レストラン(パタン)

2) 研修内容:

- 空港→ホテル
飛行機を乗り継いで、空港近くのエアポートホテルにチェックイン
- 古都パタン散策
現地通訳ラグ氏の案内による町の散策。カトマンズ先住民族であるネワール族が築いた町並みを見る。
- レストラン
西前NGOデスクと夕食懇談会を開いた。

3) 所感:

ネパール到着後は、日本との違いに目がいく。空港、道路を横断する人、ホテルの窓からみえる景色。ホテルに荷物を預けたあと、通訳ラグ氏の案内で、古都パタンを散策。古き町並みが残っており、ネワール族の都市の形成をみる事ができた。

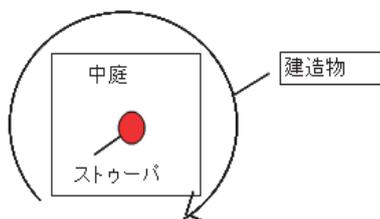
少し歩くと、中庭が連なって複合的に存在していることが伺える。ラグ氏によると、大小様々な中庭には、釈迦の像、祠、ストゥーパなどが置かれており、その中庭を囲うように建物が配置されているとのこと。また、伝統的な住居は、浄・不浄により居住空間が区分されており、台所や食堂は最上階にあるとのことであった。



ストゥーパ



伝統的居住用建物



中庭を中心に集住



浄・不浄の区分

建築美だけでも見所は多い。各住居の支柱や窓枠には宗教的な文様が施されている。仏教寺院ゴールデンテンプルでは、荘厳な輝き以上に、柱・梁等の彫刻の繊細さに目が奪われる。ダルバール広場では、木造建築だけでなく、石畳と建築物の空間美に圧倒され、しばし無言となった。カメラでその空間を捉えようとしたが、それは叶わなかった。



ゴールデン temple



同左彫刻



ダルバール広場

数時間の散策であったが、ネパール族の歴史を踏まえて案内していただいたこともあり、宗教的価値観に基づく集住、ヒンドゥー教と仏教の融合等についての理解は深まった。

夕食では伝統的なネパール族の料理を食した。今回の参加したメンバーと意見交換をしていく中で、教育行政職員として、ここネパールで何をみるべきか、日本に戻って何をすべきか、これからの研修で何かをつかまなくてはならないと強く感じた。

平成25年9月16日(月)

1) 訪問先: JICAネパール事務所、パタン市内

2) 研修内容:

●JICAネパール事務所でのブリーフィング

- ①到着ブリーフィング(飯田所員): ネパールの衣食住やタバー等の文化や国の概要について学習した。
- ②清水所長挨拶
- ③安全対策・健康管理ブリーフィング(遠藤所員・栗林健康管理員): バンダ及び一般的な犯罪等の治安状況及び体調管理のために気をつけるポイント等について学習した。
- ④NGOデスクブリーフィング(西前 NGO デスク): 「NGO・JICAジャパンデスク」、「ネパールにおけるNGO・I NGOの現状」及び「JICA草の根技術協力事業(JPP)」等、NGOデスクの業務や具体的な支援案件について学習した。
- ⑤ネパールにおける平和構築ブリーフィング(小泉企画調査員): ネパールの紛争の歴史を概観しながら、民主化までの道のりや今後どのような観点に配慮しながら支援をしていくべきかを学習した。
- ⑥ネパールの教育事情ブリーフィング(川俣所員): ネパールの教育分野の現状と日本の支援状況について学習した。
- ⑦JICA事業概要ブリーフィング(藤井次長): ネパールの農業等、産業・経済についてや日本・JICAの支援状況について学習した。

●パタン市内

地震対策関連業務に従事する古市シニア海外ボランティアから、パタン地区の歴史的建築物の修復状況や街並みの特徴等について学習した。

●振り返り

今日1日の研修において、参加者各自が気づいたことや感じたこと等について報告した。

●青年海外協力隊/シニア海外ボランティアとの懇親会

清水所長をはじめとするJICA職員及び青年海外協力隊、シニア海外ボランティアの方々との懇親会に参加した。

3) 所感:

まず、最初にJICA職員の方々から、ネパールに関して多岐にわたる情報を教えていただいたが、これらの知識が、今後様々な活動を視察していくうえで、大いに役に立つことになった。最低賃金や農業効率、出稼ぎ状況等の経済事情や、就学率、公立学校と私立学校の格差等の教育事情等々、いずれもネパールの社会を捉えていく上で、大変有意義であった。特に小泉氏による平和構築に関する講話では、まず、JICAの活動が紛争につな

がらないように配慮するという、当然ではあるが、支援する側としては忘れがちな視点を確認することができた。また、様々な意味においてネパールのもつ「多様性」がネパールの魅力であると同時に、真の統一のための障害にもなりうるということも理解でき、大いに知見を広めることができた。本日のブリーフィングのおかげで研修期間を通して、旅行者では見逃してしまったり、表面的にしか捉えられなかったであろう事柄に対しても、しっかりと意識して捉えたり、認識を深めたりすることができた場面が多く、短期間の研修ではあったが、日数以上の知識や経験の獲得につなげることができた。

また、懇親会においては、様々な隊員の方から興味深い話を伺うことができたが、中でも、午後にお世話になった古市氏からお聞きした「ネパールにおいては建築基準が守られていない(あるいは、ない)ため、新しい建物の方が災害には弱い構造になっている。」等、建築や防災に関する話には、法整備や市民の意識改革の重要性等、考えさせられることが多かった。



小泉氏による平和構築に関する講話



古市SVIによる防災・修復に関する説明



パタン市内の路地や広場を巡回

平成25年9月17日(火)

1) 訪問先:カリマティ野菜市場等(カトマンズ)、カトマンズ市役所環境課(カトマンズ)、シスドル廃棄物処理場(ヌアコット郡)、シャプラニールネパール事務所(カトマンズ)、バトバティーニ・スーパーマーケット(カトマンズ)

2) 研修内容:

・カリマティ野菜市場等(カトマンズ)

市内の野菜市場、場外の私設市場を見学しながら、食材の相違点やそこで児童労働の現場を視察した。

・カトマンズ市役所環境課(カトマンズ)→シスドル廃棄物処理場(ヌアコット郡オツカルポウア村)

カトマンズ郡における廃棄物処理の現状と取り組み及び廃棄物関連の環境委教育に取り組む青年協力隊員の活動を視察した。

・シャプラニールネパール事務所(カトマンズ)

カトマンズ盆地内で児童労働の削減に関する活動しているNGOを訪問し、ネパールにおける児童労働の現状と削減への取り組みについて説明を受けた。

・バドバティーニ・スーパーマーケット(カトマンズ)

カトマンズ市内における商業製品の品ぞろえ、生産地、小売価格等流通消費のあり方を視察するとともに、ホームステイのために必要な物資の調達を行った。

3) 所感:

① カリマティ野菜市場等で児童労働の実態を視察した。写真の兄弟(兄15歳、弟8歳)にインタビューした。兄弟の兄によると、彼らの父親は、カタルへ出稼ぎに行っている。彼らは学校へ行かず、朝5時から魚屋で働いている。学校へ行きたいが、彼らを学校へ通わせる大人がいないと言った。

また、野菜市場では、少女たちが小さな袋をもって売人が処分のため



通路にすた野菜くずをひらっている姿が見られた。人懐っこい少女が後をつけてきて「写真を撮って」というのでこの写真を撮って見せると素敵な笑顔が印象的だった。

児童労働の一部を垣間見たが、貧困ゆえ労働せざるを得ないとしても、子どもや国の将来のため、教育を受ける機会等子どもの人権と両立させなければならない。そのためには、子どもを護る制度とそれを必要な子どもたちに繋ぐ大人の力とシステムが必要である。今回、それを想定して、教育局でプレゼンすべく、スクール・ソーシャルワークの準備をしていたが、先方からの希望もあり、プレゼンテーマを職員の士気の高揚に変更したのが残念であった。



- ② 廃棄物処理における課題は、カトマンズ周辺から出稼ぎに大量の人口が流入してきて、インフラ整備が追い付いていない。分別してごみを減らすことを住民に周知徹底できれば、改善される。そこで、青年協力隊員が学校で環境教育の支援を行っていた。

右の写真が、バンダ(ストライキ)のため収集できなかったため通常より多めであるがカトマンズ市内から集められた1日分のゴミである。再生可能な資源ごみとその他のゴミが分別できていないため、最終処分場へ10倍の量を最終処分場へ搬送している。そして、この仮置き場周辺及び最終処分場では、そのゴミを女性や子どもが分別し、それを民間業者が買い取って(違法)リサイクル業者に転売している。民間業者でも児童労働がみられた。また、最終処分場では、テントで小さな子どもを連れて出稼ぎに来て、テントで寝泊まりしている女性が見られた。貧困のために出稼ぎをせざるを得ない過程が多いのだが、研修全体を通じて男性を含む大人や年長の子どもが必ず小さな子どもの面倒をみていた。日本でのネグレクトの現状を考えると、子どもにとってどちらが幸せか考えさせられた。



- ③ シャプラニールネパール事務所で宮原所長やCWIN(Children's Worker In Nepal)のスタッフ(クラル・マックライさん等)から児童労働の解消に向けた取り組みの話聞いた。児童労働禁止の法律が制定され、政府関係職員も配置されているのに児童労働がなくなるのである。CWINのスタッフが、児童を雇用している事業所にワーカーを伴って説得にあたり、学校へ通わせること、正当な報酬が支払われることを目指してとりくまれている。この取り組みの結果、絨毯工場での児童労働はなくなった。しかし、依然として他の多くの業種で20%の児童が労働している。ネパールでは、失業率も高く家庭が貧しい。そのため、児童労働の24%は、親が事業主に頼み込んで子どもを働かせているようだ。また、事業者は、大人より扱いやすく、安い賃金で雇用できるので児童を好んで雇用している。児童労働をやめさせるとその家



庭が経済的に成り立たなくなるという矛盾があり、国や子どもの将来のため、学校へ通わせるための条件を調整している。CWINでは、行政的な指導も行えないため、政府関係のワーカーと共同で活動している。日本の貧困問題や高齢者の見守り等行政とNPOの協働の参考になると思う。



- ④ バトバティーニ・スーパーマーケットは、日本の大型スーパーのような感じであった。食料品、衣料品、電気製品、雑貨の売り場がそれぞれフロアごとに配置されていた。品ぞろえはいいが、国内の産業が育っていないため、殆ど外国製品である。中国、インド、東南アジア諸国が多かった。
- ⑤ 児童労働をテーマにした1日だった。法制度や社会システムを政府は作っても、運用されていない。適切に制度や社会システムを運用するためには、人材を育成すること、国民に制度等を周知徹底すること、民間ではそれにつながるCWINのような機関協力関係を構築していくことが、制度等がうまく機能するために必要であると感じた。それを支援する方法として、政府関係職員やNPOスタッフへのソーシャルワークの理論やスキルの研修等人材育成について、福祉系大学や地方自治体における研修の受け入れや人材交流などが考えられる。まず、フェアトレード商品の購入など自分たちの身の回りからもできることから始めるよう家族、学校や職場、地域の人々に伝えることが必要であると思った。

平成25年9月18日(水)

1) 訪問先: ホテル → カブレ郡パンチカール村 → レストラン(昼食) → カブレ村 → パトレケット村にてホームステイ

2) 研修内容:

●カブレ郡パンチカール村

ホテルを一旦チェックアウトし、約1時間余りかけてラブ・グリーン・ジャパンパンチカール事務所に向かう。現地では、鈴木さんの説明で、草の根技術協力事業として住民の生活向上及び環境保全のための、植林(苗木の栽培)やバイオガス装置の設置、牧草の改良・家畜の支援、有機肥料の推進など、数多くの取組について現地視察を行った。

●カブレ村

事業の実施地域を訪問。バイオガスの精製、有機肥料及びトマトのビニールハウス栽培などを見学。ビニールハウスによって長い期間トマトがとれるようになり、旬を過ぎた時期には高い値で売れるようになるなどの改善が行われていた。また、牛の餌を機具を使って細かく切る作業も実際に見学した。

●パトレケット村(ホームステイ)

校長先生をはじめ、関係者の方々、学校の子どもたちなど大歓迎を受け、式典が盛大に行われた。その後、各自分かれて家族の方々と一緒にそれぞれのホームステイ先に向かった。ネパールの生活習慣、食文化などを実際に体験し、夜はお土産や持参した教材をもとに、各自が交流を行い、有意義な一夜をともに過ごした。

3) 所感:

- ① 実際に、植林(苗木の栽培)やバイオガスの精製、有機農業など、住民生活の向上や環境保全のための取組を目のあたりにし、大きな刺激を受けるとともに、人と人とのつながりの大切さや高い志の素晴らしさを学ぶことができた。説明のなかで、「若い人が都市部や外国に出て行ってしまうことが、村の大きな課題である。」との説明に、日本の過疎地における悩みと重なった。大変有意義な研修であった。
- ② パトレケット村での歌、踊りの歓迎は、とても温かいものを感じた。子どもたちの瞳も輝いていた。ホームステイ先にたどり着くまでの道のりは久しぶりのワクワク気分であった。各自がそれぞれに充実かつ有意義な交流をし、忘れられない一夜を過ごすことができた。翌朝の澄み切った朝日に照らされて輝く雄大なヒマラヤ

山脈は感動的であった。



〈ラブ・グリーン・ジャパンでの研修〉



〈バイオガスの精製〉



〈牛の餌を裁断する様子〉



〈パトレケット村に到着〉



〈村の方々から大歓迎〉



〈ホームステイ先(ダルバート)〉

平成 25 年 9 月 19 日(木)

1) 訪問先: シンドウパルチョーク郡の小学校(午前中はパトレケット村でホームステイ)

2) 研修内容:

午前・・・ホームステイ場所でネパールの日常の生活体験。

午後・・・シンドウパルチョーク郡の小学校に訪問。青年海外協力隊 福山隊員(村落開発普及員)の活動視察を行う。

(ネパール各地の学校を、30数ヶ所回っている福山隊員の教育の取り組み方について視察。)

3) 所感:

午前9時までは、ホームステイ場所でネパールの朝の日常の体験。朝6時くらいから一日が始まり、乳搾りと朝食の準備から1日が始まった。手伝いをすれば体験も出来て尚かつ喜ばれるかと思っただ、お客様にはさせられないようで、逆に気を遣われてしまった。牛の乳搾りを体験させて頂いた後、ブラックティー(飴湯を更に甘くしたようなお茶)が出されたので頂き、飲み干した後は甘いビスケットが出され、そして絞りたてのミルクティー(甘温い)を頂いた。ネパールの食は平均辛いものだと思っていたが、実は甘いというのにビックリした。そしてその後、本当の朝食が始まったのには脳天が割れそうな衝撃でした。(暑さ 2cm ほど分厚いキュウリは食べ甲斐があった。)そしてその後、ホームステイ先の子もたちに連れられて寺院に。朝の気持ちよさに、つい子どもたちと寺院まで競争となり、年甲斐もなくはしゃいでしまった自分がいた。別れの時、ホームステイ場所のパトレケット村の皆様と歓談、そして記念撮影をした。(私自身は、記念写真の瞬間ついにダウンしてしまい、その場に居れなかったのが辛かったような。)



それから移動時間3時間かけて、シンドウパルチョーク郡の小学校に行き福山隊員の活動視察を行う。(ネパール各地の学校を、30数ヶ所回っている福山隊員の教育の取り組み方について視察。)福山隊員が授業をするにあたって黒板がない状況の中で、子どもたちとコミュニケーションをはかる手段として、人形や絵をつかい、楽しくわかりやすい授業を展開していく様に目を引かれた。



また井上先生と岡先生が中心となって、今回の参加メンバー全員で現地の子どもたちとゲームを通じてのコミュニケーションづくりを行った。室外での交流をと思っていたが、ちょうどその時に雨が降ってきて、室内でということになったが、先生方の素晴らしいパフォーマンスなどで楽しく和やかな空間をつくることができた。子どもたちと一生懸命向き合うことができるならば、国が違い言葉や文化は違っていても、心は通じるのだなと思った。

その後、校長室で意見交換を行ったときに、子どもの数に対して、絶対的に先生の数が足りないということで、校長先生との話の中では給料が安く生活が出来ないということが理由の一つに挙げられた。正規でも安いのに、臨時なら更に極端に少ない給料になるという事実。そこに、ネパールの教育に足かせをつけているのではと思われる。また国の情勢がまだ不安定なところもあり、まだまだ教育分野までに手が届かないということでもあるので、そこから始まらなければ、なかなか難しい問題であると感じられた。今の状況では黒板一つにしても、教室に作る事が出来ない。何か我々に出来ることがないのかと思わされた1日だった。



平成 25 年 9 月 20 日(金)

1) 訪問先:ネパール教育局→バクタプル(昼食)→CBROB デイケアセンター(障害児支援施設)

2) 研修内容:

- ネパール教育局でのブリーフィング 10 時 20 分～
 - ①開会の言葉, ②代表挨拶(吉田智), ③教育局長挨拶
 - ④教育局プレゼン:ネパールの教育の現状と課題について
 - ⑤中岡さんからの説明
 - ⑥各研修者から取り組みについてのプレゼン
 - ⑦双方のプレゼンを受けてのシャルマン(ダイレクター)からの感想
 - ⑧教育局長からの感想
- バクタプル ビヨンド(韓国料理店)で昼食
- CBROB デイケアセンター(障害児支援施設)見学 14 時 20 分～

①センター長挨拶及びセンターの説明

②質疑応答

③入所児とのふれあい

・JICA ネパール事務所で研修報告及び振り返り 16時5分～

3) 所感:

●ネパール教育局でのブリーフィング

ネパールの教育事情と四国(日本)の教育事情の意見交換をする中で、共通の悩みや国(地域)独自の問題点が明らかになり、今後、取り組むべき方向性の糸口がつかめたような気がした。

ブリーフィングの最後に教育局長から「ネパールと日本の郡・県単位での交流を JICA を通じて深めていけたらいいですね。」との言葉があった。この研修が一つのきっかけとなって両国の教育の振興につながればいいと思った。

●バクタプル ビヨンド(韓国料理店)で昼食。日本国の料理で参加者一同ほっこりする。

●CBROB デイケアセンター(障害児支援施設)見学

この施設は 17 年前から活動を行っており特に脳性麻痺、知的障害、自閉症などの障害を持つ児童生徒の支援と治療(機能回復)のため民間の施設である。施設の運営は海外からの支援と利用者の保護者からの出資で行われているが経済的に払える保護者からは徴収して、払えない保護者からは徴収せず、施設の費用で負担するシステムに感銘を受ける。施設の面積、採光などの環境面で改善が必要な箇所も見られた。今後、政府及び NGO からの支援に期待したいと感じた。

● JICA ネパール事務所で研修報告及び振り返り

研修を終えての報告を行った。参加者それぞれに帰国後の取り組むべき課題をもって、研修を終えることができたように思う。



平成 25 年 9 月 21 日(土)

1) 訪問先: A グループ(マウンテンフライト・ラグさんお宅訪問ツアー)

B グループ(西前さんとお買い物満喫ツアー:タメル地区等)

2) 研修内容: 市内観光(教材収集等)

3) 所感: 研修最終日、カトマンズでバンダが行われるという情報もあったが、大規模なバンダは実施されることなく、2グループは無事市内観光(教材収集等)を満喫することができた。



〈いざフライトへ AM5:30〉



〈機内にて〉



〈いざ買い物へ 西前さんと〉



〈買い物休憩にチヤを1杯〉

Bグループは、カトマンズのダルバール広場からタメル地区までを散策し、ネパールの文化や人々の暮らしを肌で感じる事ができた。窓枠の木彫りが美しいクマリの館や、シヴァ神の化身である恐怖の神カーラ・バイラヴ像や

寺院など、本やPCで見ていた文化遺産「カトマンズ盆地」を直接五感で味わうことができ、たくさんの発見を得た。さらに、人で溢れるバザール「アサン・チョーク」を人の流れに吞まれながら何とか通り抜け、タメル地区へと向かった。途中、ネパール国旗やヒマラヤの岩塩、フェアトレードの靴など、あらゆる物を買いき、教材収集に努めた。

Aグループも訪問したネパール最大のヒンドゥー教寺院のパシュパティナートは、静かに自分を見つめ直すことができる場所であった。バグマティ川を挟んだ対岸の石段に座って火葬場の様子を見ながら、ネパールの人々の信仰心を強く感じる事ができた。「ネパールには、人々の数より多くの神々がいる」ということを聞いたことがあるが、町を歩いてみても、村に行っても、人々の篤い信仰心のもと、たくさんの神がいることがよく分かった。

ネパール最後の夜は、みんなで民族舞踊を観ながら、研修の日々を振り返りディナーを楽しんだ。たくさんの方々にお世話になったネパール研修。皆様に心から感謝いたします。ダンネバード。



〈カーラ・バイラヴ像〉



〈アサン・チョークの人波〉



〈アルエガート(火葬場)を眺む〉



〈ダルバート・タルカリ〉

平成 25 年 9 月 22 日(日)

1) 訪問先: ホテル→トリブバン国際空港(カトマンズ)→スワンナプーム国際空港(バンコク)
→関西国際空港

2) 研修内容:

・わずかな時間を見つけて、最後の買い物へ出かけた(ナマステスーパーマーケット)。

お土産やお世話になった方へのお礼を買った。帰国後の授業に活用できそうな教材の収集をした。ホテルへ集合し、思い出の品々について話をしながら、預ける荷物と手荷物の重さを量りながら荷物の整理を行った。

・カトマンズ空港で出国審査

出国者が多いが手続きの体制が十分に整っていないため大行列。違いを痛感した。

・スワンナプーム国際空港でトランジット

往路と同様に長い待ち時間があった。しかし、お土産や施設を見学しているとあっという間に集合、搭乗の時間になってしまった。世界一の広さのターミナルビル内を歩いていると様々な人種・様々な言語が入り交じっており、ハブ空港として発展してきている現状を感じる事ができた。

3) 所感:

台風による影響を心配しながら朝を迎えたが、影響は小さいだろうというニュースにホッとしながらも、できることならもう少しどまりたい気持ちが強くなっていた。ホテルの裏にある学校が滞在中で一番賑やかな日で朝早くからバスケットボールを行っていたが(2~3時間続けて)、宗教的な音楽がかかる(数回あった)と、登校中の生徒も職員も自転車も止まり、気をつけの姿勢で立っていた。ネパールに滞在中は人々の信仰心の強さに驚かされたが、学校教育の中にも宗教が日常的に位置付いていることに驚いた。

カトマンズは非常に活気に満ちた街で、活動されている方々のお話を聞いたり取り組む姿勢を見ると多くの魅力をもった街であることがよくわかった。しかし、



空港の通路にはタイの文化を紹介する建造物がいくつかあった

人々が生活をしていく上では、安全面や衛生面でのさらなる配慮が必要であることもわかった。これからは見て聞いて感じてきたことを地域に広げて、自分たちが何をすべきなのかを一緒に考えていきたいと思う。



歩道橋のすぐ横の高圧電線

「ドキッ！」
スリーパーの側で見かけた



命綱なしでの建設現場での作業

※海外研修レポートは参加教員の皆さんが分担して作成しました。

■参加者氏名

名前	県名	所属先
岡 利旨久	香川	香川県立五色台少年自然センター
溝渕 大輔	香川	香川県教育委員会事務局 生涯学習・文化財課
俣野 英二	香川	香川県埋蔵文化財センター
吉田 智	香川	香川県教育センター
木屋村雅信	徳島	吉野川市教育委員会 学校教育課
池田 繁人	徳島	那賀町教育委員会
林 賢彦	徳島	徳島県教育委員会 教育文化政策課
井上 雄二	高知	香南市教育委員会
前田 裕史	高知	須崎市教育委員会
近藤 結香	愛媛	東温市教育委員会 学校教育課

■同行者氏名

西岡 美紀	香川	香川県国際協力推進員
-------	----	------------